



欲しい情報・データを手軽に「検索・分析・編集」  
たとえば、「知りたい」「調べたい」情報があつた時、今やインターネットの検索サイトを利用する方法が一般化しています。しかし、社内システム上にある情報やデータを探す時はどうでしょうか。インターネットで検索するようには簡単にはいかないのが現状です。こうした企業システム上の膨大なデータや情報を「インターネット感覚」で検索・入手し、自由に分析・編集できるようにするのが、B-I（ビジネスインテリジェンス）です。

### リアルタイムのデータ把握とともに 再び注目を浴びるB-I活用

この「B-I」という概念は15年以上も前に生まれたものですが、日本国内では一部の企業を除き、あまり普及してきませんでした。その主な要因としては、B-Iの前提となるリアルタイムにデータ収集するための仕組みがまだ整っていなかったことがあげられます。

しかし近年、ERPなどによる人事・会計データの管理、さらにはWebログや電子メールなどの非構造データ、外部データなどをリアルタイムで検知・管理できる機能が普及してきたことで、その活用を促進するB-Iが再び注目を集め始めています。

### 情報整備が難しい 業務支援分野でも B-Iソリューションを提供

これまでのB-I活用は経営支援分野が主目的とされてきましたが、業務支援分野においてもB-Iを活用する動きが活発化しています。従来は商品管理者や生産管理者が利用していた顧客分析情報や製品情報をマーケティング活動にも有効利用しようというのが、その理由です。ただし、業務支援分野の場合、部門の垣根を越えて情報を共有することが必須となるため、部門間で異なる分類・用語を統一する作業が発生します。また、他

## IT・未・来・観・測 Perspective View

# BI導入のススメ

企業システムに蓄積されている膨大なデータや情報を容易に検索・分析・編集できるようにし、迅速な意思決定を促進するBI（ビジネスインテリジェンス）—— 必要な情報を、必要な時に、自在に分析できる情報環境を構築することで、経営革新やワークスタイルの変革を実現するBIソリューションについて、総合技術研究所の羽田昭裕をご紹介します。



羽田 昭裕  
日本ユニシス  
総合技術研究所  
主席コンサルタント

1984年、日本ユニシス入社。意思決定支援ソフトウェアの開発・適用などに従事した後、業務システムとその基盤の要求分析・開発に携わる。現在は、総合技術研究所・ITソリューション部に所属。次世代の情報基盤構想に悩むシステム企画者とのワークショップなどの活動も展開している。

### 今ある情報を いかに経営に活用するか という観点が重要

このように多様な情報技術が整備されつつあるなか、中長期的な視野で情報システムの見直しを考えるのであれば、現在の延長線上で基幹系システムを再整備するよりも、「今ある情報をいかに経営や業務に活用するか」という観点から情報システムを見直すことをお勧めします。これからの時代に求められるワークスタイルの確立に向けて、B-Iを活用してみたいかがでしうか。

部署のデータがどこにあるのか、どう関係づけられているのかを一つひとつ紐解いていかなければなりません。しかし、商品のライフサイクルが短く、組織変更が頻繁に行われる昨今のビジネス環境においては、そうした情報の整備は簡単には行えず、そのために情報の提供が後手に回ってしまうケースも少なくありません。そこで日本ユニシスでは、企業システム上のさまざまな情報を統合的に管理するアプリケーションや用語の使い方が異なるシステム間のつじつまを合わせるオントロジー技術などを活用したB-I構築などもご提案しています。